

ぎのわん市の沖縄戦

～“あの日の記憶”を語り継ぐ～



宜野湾市戦跡MAP

このマップでは「足を選べる場所」を紹介しています。その場所に行くことで学ぶことができます。

② 普天満宮洞穴

普天満宮の境内にある、昔からよく知られた聖地です。戦時中、普天間住民の避難壕として使用されましたが、1945年4月1日の米軍上陸時に本島南部へ避難した人もいました。壕に残った人の中には、食糧調達の最中、米軍とはち合わせとなり、亡くなった人もいました。翌日の2日には、この洞穴に避難していた人たち全員が捕虜となりました。

※見学をされる際は、普天満宮で手続きを行ってください。



① 野嵩収容所

1945年4月1日の米軍の本島上陸から数日後に民間人の捕虜収容所として設置されました。民家の母屋をはじめ、家畜小屋に至るまで収容施設として使われ、戦後初期のピーク時には、宜野湾の人だけではなく、那覇や島尻方面の人たちも含め、1万人余りの人々が収容されていました。

※住宅地のため見学の際は、近隣にお住まいの方々へ迷惑にならないよう心がけてください。



③ 嘉数高地

当地は、1945年4月6日頃から2週間余りにわたって激戦が繰り返されました。日本軍が爆雷を背負って戦車に体当たりをするという肉弾戦法により、米軍は大きな被害を受けました。日米両軍の兵士に加え、嘉数区の住民のおよそ半分(53%)が戦難に巻き込まれて命を落としています。今は「嘉数高台公園」として市民の憩いの場となっていますが、園内には今もなおトーチカや陣地壕が残っています。この場所で悲しい歴史があったことを忘れてはいけません。



宜野湾市の
沖縄戦について
公式HPでチェック！

米軍はお家や畑などがあった「生活の場」に普天間基地を作ったんだ。だから帰る場所をうばわれてしまった人たちもたくさんいたんだよ。



宜野湾市の戦跡は他にもあるよ！

- ① ハウスナンバー 32
- ② MP事務所
- ③ 安仁屋の避難壕
- ④ シマヌカー
- ⑤ フトゥケーブ
- ⑥ パイプライン
- ⑦ ケレンケレンガマ
- ⑧ マヤーアブ
- ⑨ 大謝名の避難壕
- ⑩ チヂフチャーガマ (浦添市)
- ⑪ 嘉数病院壕
- ⑫ 佐真下部落の防空壕
- ⑬ 我如古チンガーガマ
- ⑭ クマイアブ
- ⑮ ティラガマ
- ⑯ マーカーガマ



戦争体験者に インタビュー

大城 勇一さん

ご家族5名で避難しているとき、記憶に残っていることはありますか？

南風原から南へ向かい、最後は摩文仁の海岸に行ったんですけど、一番上の姉が、摩文仁の入り口で心臓麻痺で倒れたんです。両親が助けてあげようとしたんですが、そのときに丘の上から機関銃で狙われたんです。

だから姉を助けてあげることができなくて、家族みんな、姉を置き去りにして逃げました。アダンの陰に隠れて、私たちはどうにか助かりましたが、姉はそのまま亡くなっていました。

あのときは、夢中で逃げることしか考えなかった。姉が死んで、悲しいとか、涙を流して泣くとか、そんな気持ちはなかったんです。戦争中は、とにかく逃げるという気持ちしかないから。悲しみに浸っている時間もなかった。

八重瀬町のギーザバンタで、あるご夫婦にお会いしたということなんですけど、どのようなことがあったんですか？

奥さんは妊娠してる若い女の人でしたね。いっしょに壕の中で生活していたんです。「夫が食料を探しに行ったんだけど、帰って来ない」と言って心配していました。しばらくして夫は帰ってきたんですけど、「食料が探せなかった」と…。

絶望してしまったんでしょうね。しばらくしたら、その夫が、うちの父に小銃を持ってきて、「これで、私たちを

殺してくれ」と…。

でも父は言いました。

「命を大切に下さい」と。

そう言われたから思いとどまったのか、しばらくしてどうなったのか覗いたんですが、2人ともいなくなっていました。おそらくは、捕虜になったんだと思います。

大城さんの家族も捕虜になったとのことですが、どうして捕虜になろうと思ったんですか？

あの頃は食料もないし、味噌をなめて生きているくらいで、これじゃみんな餓死するのも時間の問題でした。その頃はギーザバンタの海岸からアメリカ軍の放送が聞こえてきてて、捕虜になっても殺されないという期待があったもんだから、家族みんな「捕虜になろう」と決めてました。

ところが、日本兵がやってきて、「お前ら沖縄人はみんなスパイだ。お前らが捕虜に出るときは撃ち殺してやるから覚えておけ」と脅されたんです。

その頃から、僕なんかは日本軍を信用しなかった。こんなやつらに殺されてたまるかという気持ちでした。だから米兵を見つけたときは、自分から投降しました。





世界平和を希求する 反核軍縮平和宣言都市

平和都市宣言

.....

我々宜野湾市民は、第二次大戦の悲痛な教訓を生かし、反核、軍縮を求める平和都市として次のとおり宣言する。

- 我が国は、非核三原則を国是としており、今後ともその基本理念である反核を全国民が連帯して推進しなければならない。
こくぜ
- 宜野湾市民は、宜野湾市を永久に反核、軍縮を求める平和都市とすることを決意し、人類の滅亡につながる核兵器の廃絶と軍備の縮小を核保有国に強く求める。
はいぜつ
- 我が宜野湾市民は、子孫の繁栄を願い、世界平和を希求する諸国民と連帯して、米ソ両国に反核、軍縮を強く求め、恒久平和を築くため、全力を尽くすことを誓う。
ちか

1985年(昭和60年)3月18日
宜野湾市



宜野湾市